

子宮頸^{けい}がん予防は小学校6年生から

ココが知りたい

子宮頸^{けい}がん予防

[ワクチンと検診]



監修:長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 小児科学 教授 森内 浩幸 先生

ココが知りたい

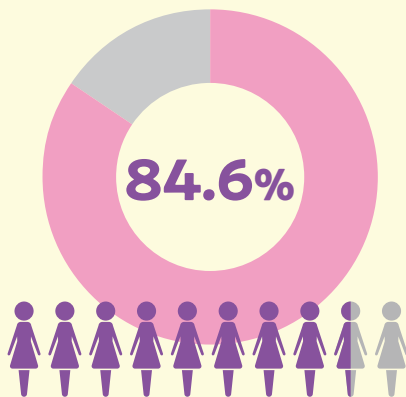


子宮頸^{けい}がんの原因は？

子宮頸^{けい}がんの95%以上は、**ヒトパピローマウイルス(HPV)**というウイルスの感染が原因で起こります。

HPVはとてもありふれたウイルスで、海外の報告では異性との性交経験のある女性の84.6%が一生涯に一度は感染すると推計されています。

性交経験のある女性のHPV感染率(アメリカ)



Chesson HW et al. Sex Transm Dis. 2014; 41: 660-664.

日本では毎年どれくらいの女性が子宮頸^{けい}がんと診断されているのでしょうか？

子宮頸^{けい}がんについて もっと知りたい



詳しくはこちら

“子宮頸^{けい}がん”

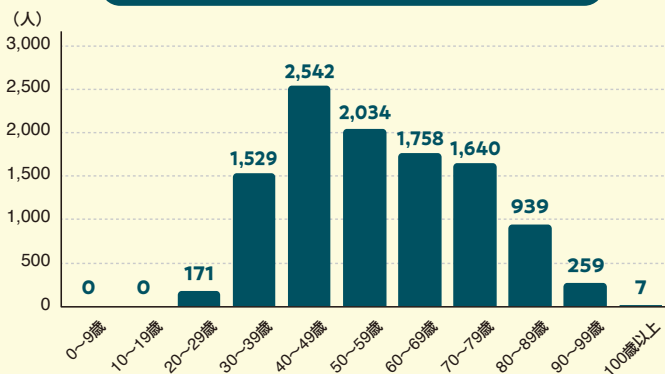


がんって、
まだ先の話じゃないの？

一般的に他の多くのがんは高齢になるほど発症率が高くなりますが、**子宮頸がんは20歳代から上昇し、40歳代でピークをむかえます¹⁾**。

出産や子育てをしている世代で、小さい子どもを残して亡くなることもあるため、「マザーキラー」とも呼ばれます。

子宮頸がんと新たに診断された人の数(2019年)¹⁾



1) 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん登録) 全国がん罹患データ(2016年～2019年)

初期のがんであれば子宮の温存は可能ですが、妊娠した時に早産のリスクが高まること、またがんが進行してしまった場合、子宮を取る手術や放射線治療により妊娠・出産ができなくなるなど、女性の体や生活に様々な影響を与える可能性があります。



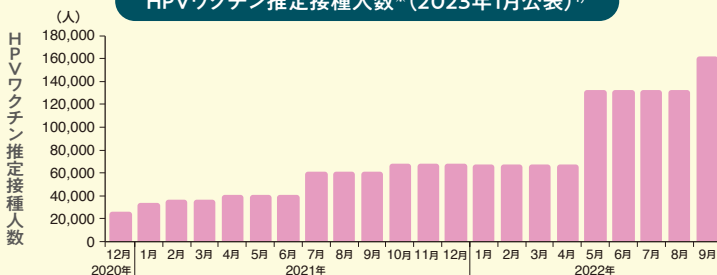
ココが “HPVワクチン”



みんなHPVワクチンを 接種しているの？

HPVワクチンを接種する方は増えています。

HPVワクチン推定接種人数※(2023年1月公表)¹⁾



※：推定接種人数(2価、4価、9価ワクチン合計)を報告期間の月数で割ったものを、月別推定接種人数として計算した(2022年9月は単月)。

日本におけるHPVワクチンの接種率は、国が積極的に接種を勧めることを中断する前は、その当時の対象であった平成9年度～平成11年度生まれの女性の約70%が接種していました²⁾。HPVワクチンは、「予防接種を受けるよう努めなければならない」ワクチンとして推奨されており、一時中断されていた個別のお知らせが2022年4月に再開された以降は、徐々に接種する方が増えてきています。

- 1) 厚生労働省 2023年1月20日 第90回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会 資料2-8、2-9、2-10-1 より作成
- 2) 厚生労働省 2016年12月26日 第23回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会 資料4

接種後の副反応が不安。
安全性は大丈夫でしょうか？

HPVワクチンの副反応について もっと知りたい



詳しくはこちら

知りたい (子宮頸がんワクチン)^{けい}



HPVワクチンの接種には 費用はかかるの？

定期接種・キャッチアップ接種の対象者の方は公費で接種できます。

HPVワクチンの定期接種^{※1}の対象者は、小学校6年生～高校1年生相当の女の子です。また、2023年4月現在、定期接種の機会を逃した平成9年度生まれ～平成18年度生まれまでの女性は、令和4年4月～令和7年3月までの3年間限定で公費で接種が可能です(キャッチアップ接種)。任意接種^{※2}の場合には約5～10万円程度の費用がかかりますが、定期接種の場合は公費により原則自己負担なしで接種を受けることができます。

※1: 法律に基づいて、市区町村が主体となって実施。費用は公費(自己負担なし)で接種することができる。

※2: 希望者が各自で受ける予防接種。費用は自己負担。

子宮頸がんは、性交渉によるHPV感染が原因で起こることがわかっています。はじめての性交渉よりも前にワクチンを接種することで、高い効果が期待できます。たとえ小学生でも、HPVワクチン接種の時期が早すぎるということはありません。

性交渉経験率(2017年)¹⁾

大学女子	36.7%
高校女子	19.3%
中学女子	4.5%

1) 日本性教育協会 青少年の性行動 わが国の中学生・高校生・大学生に関する第8回調査報告

HPVワクチン接種については
医師にご相談ください。



ココが知りたい

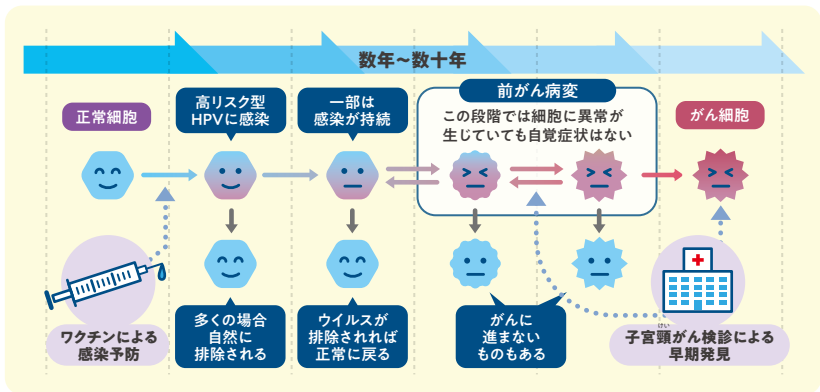


ワクチンを打たなくても 子宮頸がん検診を受ければ大丈夫？

子宮頸がん検診は、がんの早期発見・早期治療が目的です。

検診ではがんの発症を防ぐことはできません。子宮頸がんの原因となるHPV感染は、HPVワクチン接種による予防が大切です。一方で、子宮頸がんのなかにはHPVワクチンでは予防できないタイプのHPVが原因のがんもあります。

子宮頸がん予防には、HPVワクチン接種と定期的な子宮頸がん検診の2つが大切です。
子宮頸がんは、“予防手段のあるがん”です。



子宮頸がん検診は
どこで受けられるのですか？

子宮頸がん検診について もっと知りたい



詳しくはこちら

“子宮頸がん検診”^{けい}

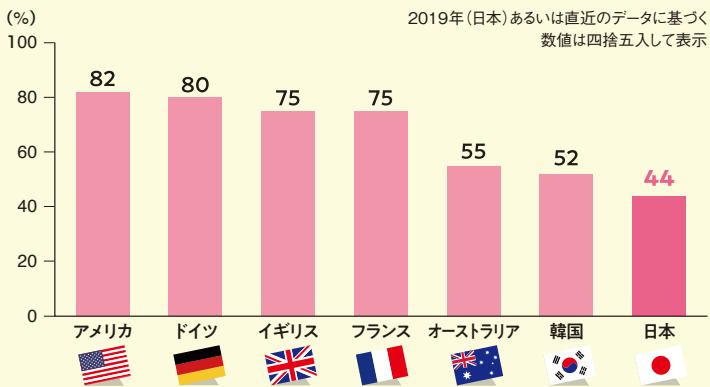


日本での検診受診率は？

日本における子宮頸がんの検診受診率は44%です。

世界各国の子宮頸がん検診受診率^{けい}1)

(OECD [経済協力開発機構] 加盟国における20~69歳女性)



子宮頸がん検診は、世界の先進国では約80%の女性が受診している国もあり、**今や先進国では多くの女性に“必要な検診”と捉えられています。**

1) 公益財団法人 がん研究振興財団 がんの統計 2022

20歳になったら、2年に1回の子宮頸がん検診^{けい}を受けましょう。



子宮頸がん予防に関する詳しい情報はこちらへ

もっと知りたい

子宮頸がん予防

<https://www.shikyukeigan-yobo.jp/>



子宮頸がん予防(HPVワクチン接種や子宮頸がん検診など)に役立つ情報を詳しく紹介しています。



MSD製薬

INVENTING FOR LIFE

2023年4月作成
SIL23PA1007